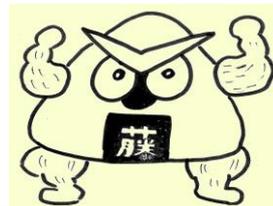


我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立藤尾小学校 2025年10月



学校教育目標

「ともに学び、心豊かで、たくましい藤尾の子」

ふ：深く考え友と学び合える子ども

じ：自他の命と心を大切にできる子ども

お：おおいに心と体を鍛え続ける子ども

調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】 ＊調査人数が少ないため、全体的な傾向を捉えることは難しいですが以下の結果が見られました。

★学習★

★質問用紙★

国語

「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域において、県の結果より上回りました。「書くこと」については、県や全国よりも特に低い正答率となりました。

算数

「図形」においては、県の平均を少し下回る正答率ですが、「測定」においては、県や全国を大きく下回り、全体的に低い正答率となりました。

理科

「粒子」「地球」においては、県や全国の結果を大きく上回りました。しかし、「エネルギー」においては、県や全国を下回りました。

肯定的に回答する児童が多い項目

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」
- 「インターネットを使って情報を収集することができると思いますか」

課題の見られる項目

- 「自分にはよいところがあると思いますか」
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
- 「平日、学校の授業時間以外に、一日あたりどのくらいの時間、勉強しますか」

【今後の改善に向けて】

【全般】児童が安心して学べる環境をチーム担任制を通して作り上げていく。また、小規模校の強みを活かし、年5回の全校集会を通し、学年集団の育成や自己肯定感や自己有用感を感じられる取り組みを実践させていく。毎朝15分間のチャレンジタイムや家庭学習を通して基礎基本の徹底を行う。

【国語科】国語科の「書くこと」の学力を育てるために、全学年でのふりかえり活動の徹底と内容の具体性を段階的に高める取り組みを行っている。低学年では、「分かったこと」や「頑張ったこと」をひとことで書くことを行っている。中学年では、「なぜ」「どうして」などの理由を添えて書く力を育てている。高学年では、2～3文にわたり具体的なふりかえりを書くことで要約して伝える力を培っている。国語のみでなく、全教科においてふりかえりを「書くこと」を意識し、継続的に取り組むことで学力の向上を図っていく。

【算数科】算数科の「測定」の分野では、量的感覚が不十分であることがつまずきの要因であると考えている。そのため、全学年で実際に計測するなど数学的活動を充実させ量感を養っていく。今後も、文字や数式だけでなく、実際に手や目を使って考える活動を取り入れながら、量に対する理解を深め、学力向上を図っていく。